

向上、商品パッケージ改善、果樹栽培の灌水施肥のコースに関心が高く参加者が多かった。

- ビジネス交流として12社のオンライン商談会を実施した。土壌改良剤、食品乾燥機、農業資材・道具などの企業が参加した。特に日系農業者から関心が高かったのが中南米食品を日本に輸入する企業。
- 中南米部会を11月に開催し、さらに分科会・ウェビナーを2月下旬～3月に行う。
- その他の取組として、日系農業者団体に関するデータベース更新、竹下委員提案の写真ギャラリーページの製作、ブラジルおよびパラグアイの日系農業者の生産実態調査、南米におけるスマート農業調査、新型コロナウイルスの影響調査、日本食調査、ブラジルのコメ事情調査、など。
- ブラジルのコメ事情調査はサンパウロを中心に、コメの消費動向、輸出入の状況、産地、パックスライスの販売状況などを調査した結果をまとめた。

【第2回日系農業者等連携強化会議】

- 2月10日に開催し、コロンビアやメキシコからも参加して、日系農業者84名が参加した。
- 研修事業（オンラインセミナー）に関して、時間帯に合わせて参加できる、非常に参考になったという声が上がったと共に、今後の要望として日本市場進出に必要な情報、カイゼン・5Sのような管理手法についての発言が上がった。
- ビジネス交流については、このような情報交換を通して有益なビジネスが実現することを願う、一度の商談会で終わるのではなくフォローアップがあれば良い、中南米側からも商品を販売していきたい、という声が上がった。

【事業実施結果への意見】

- コロナ禍が禍（わざわい）ではないと感じるくらいに、今年度事業をうまく実施することができたという印象。
- 南米に今ベトナム産の日本米が輸入されているということで、富裕層向けの日本米の輸出の可能性を追求していいのではと考える。
- ビジネス商談会等いくつかのイベントに参加し、非常に具体的かつ、日本それから中南米の方の要望を踏まえながらしっかり事業が組み立てられている、事業推進委員会で出された意見が事業運営に反映されているという印象を持った。日本の農業と競合しないような形で、日本の消費者のニーズに応じた農産物の輸入については差し支えないという農林水産省のスタンスを踏まえた上で、事業のアイデアを出していきたい。
- ブラジルの米調査や日系農業者の生実態調査等は公表できる部分について、日本の農業関係の方々が読む新聞・メディアなどに公開し、一人でも多くの人に見ていただいて関心をもってもらったら良いのではないかと思う。

【次年度事業構想の発表】

- 来年度についても基本的には今年度と同じようにオンラインをベースに、事業対象国を5カ国に絞らず、中南米地域でこの事業を展開していく。
- 新しい要素として、中南米とつながりが深い地方公共団体・公共機関等を含めた中南米の連絡協議会を日本国内に設置することを検討している。それにより、事業の取組の周知、あるいは輸出促進につながる枠組みとする。
- 日本企業の関心を中南米の日系農業者の方に発信するのと合わせて、中南米の日系農業者の方から日本側に発信するという、双方向の形を検討する。
- 中南米部会の中で、輸出促進やコールドチェーン構築、穀物などの分野別の分科会の開催、さらにウェビナーの開催を行い、中南米に関する関心を高める。
- 輸出促進につながる調査を行う。具体的には、食の実態調査、日本食販売の情報、日本食品・食材に対する中南米消費者の趣向性調査、スマート農業の実態調査、穀物インフラの情報収集など。

【次年度事業への意見】

ネットワーク強化

- 中南米の日系農業者の連携交流という柱では、J-AGROのように研修生同士がネットワークを作り

始めていてこの事業の大きな財産となっている。

- 中南米側の提案・要望を受けてセミナーを実践するという形を組み込んでいくというスタンスも必要である。さらに中南米側の講師・企業のネットワークを作っていくことも重要。

ビジネスマッチング戦略

- 中南米の日系農業者の方々、どちらかといえば個人としてのニーズに基づいて要望を出していることが多いが、今後はさらに組織してのニーズをどう織り込んでいくのか、組織をどう増やしていくのが次年度の課題になる。
- ビジネスマッチングは、今後は最後のアクションに至るきっかけ、購買行動に踏み切る要素になるものをこの事業でどう取り組んでいくのが課題になる。
- 日本企業が中南米と連携してお互いwin-winになるというのが狙いではあると思うが、日本の農業の活性化を心に留めることが大事であり、そのように考えていると感じた。
- 中南米には6億人が住んでいて、日系の方は200万人のみであるが、6億人のマーケットを狙うためにまず入りやすい日系の方をエントリーにして、それを日本の企業の方、農業の方と関係付けて、広げていく戦略がある。

他機関との連携

- 相手国から日本への輸出は、ブラジルであればブラジルの輸出振興局も巻き込むとよいのではないか。
- JETROやJICAのような機関と連携しながらしつこく事業を進めていくことが重要。例えば日本の自治体の農業試験場の農業技師をJICA制度で派遣し、その出身母体の自治体や企業とつなげるという全体の絵を、この事業で描いて架け橋としてこの事業が機能すればいい。

日本食の普及

- 日本食普及は現地食材を使うこともよいが、差別化された商品（例えば特別な餌をもとにした卵、うどん専用の麦や小麦粉、ラーメン専用のラー麦など）の輸出など、日本でとれた農産物による日本食の普及が非常に望ましいやり方であると考える。
- JETROでは日本食の調査を行っているが、日本食材の現地側での趣向・評価をまとめたレポートは日系企業からの評価が高く、来年度に行う調査の中では企業のフォーカスグループを交えて行うとよいのではないか。
- 日系人が現地で同じものを作っている場合は日本食品の日本からの輸出はすごく難しく、逆にチリのような日系人がいない国では売り上げが数倍になるということもあり、実際に日本の食品関係の企業を事業に取り組む場合は非常にセンシティブにやらなければならない。

情報発信

- 中南米の方々が日本向けに何かを輸出したい場合、日本の流通サイドはパッケージについてどのようなことを考えているか、マッチングの際には情報提供することが求められる。
- 今回商談会に出た企業で機械関係の企業もあったが、実際に技術を模倣されるケースは中南米などであるため、中南米の知財に関する情報を知らせる必要がある。さらに制度情報のインプットも企業向けにやっていいのではないか。
- ビジネスマッチングの広報について、スタートアップ企業はSNSを活用することが多いため、SNSで情報を拡散するのはどうか。また例えばドローンが農業のためだけの技術ではなく農業にも活用できるという技術であるという点から、農業だけでなくもう少し幅を広げることはいか。
- 現在制作している写真・動画のウェブページに加えて、中南米ではこんなものを使っている、こんなやり方をしているという情報発信があると、より使えるものになるのではと思う。

2. 日系農業者等連携強化会議の開催

事業対象国の日系農業者等の連携強化を図るため、日系農業者等連携強化会議を開催する。

日系農業者等連携強化会議

事業対象国の日系農業者等が抱える課題の抽出、課題解決のための意見交換・情報共有・議論を行うため、事業対象国 5 か国の日系農業者等からの出席者により、日系農業者等連携強化会議を以下の通り実施した。

回	日程	場所	参加者
第 1 回	令和 2 年 9 月 11 日	オンライン方式	91 名
第 2 回	令和 3 年 2 月 10 日	オンライン方式	84 名

開催概要及び実施結果を以下に示す。議事録や参加者の詳細は別冊の事業実施報告書資料編に記載する。

(1) 第 1 回日系農業者等連携強化会議

1) 基本情報

日程	令和 2 年 9 月 11 日 (金) 8:00-10:15
場所	オンライン方式 (ZOOM)
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー (オブザーバー：チリ、ウルグアイ、コロンビア、メキシコ、ドミニカ共)
参加者	日系農業者：合計 91 名 (ブラジル 55 名、アルゼンチン 6 名、パラグアイ 9 名、ボリビア 6 名、ペルー 12 名、コロンビア 3 名) 関係機関：合計 44 名 (農林水産省、事業推進委員会、在外公館、JICA 等)
内容	1) 事業対象国近況報告 2) 事業内容説明 3) 意見交換
言語	日本語・ポルトガル語 (スペイン語) 逐次通訳

2) 参加者

ブラジル(55)	APPC 農協(2)、Jacto 社(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、Legado e Família 社(1)、SEBRAE 中小企業支援サービス(1)、SEDAP 農牧漁業開発局(1)、Soberana 農場(1)、Tres Irmãos 農場(1)、アグロバレー(1)、イビウナ農協(1)、イビウナ農村組合(1)、ウニオンカストレンセ農協(2)、カップンボニート農協(2)、サンゴタルド地域協議会(1)、サンジョアキン農協(3)、サンタイザベル・サントアントニオドタウア組合(1)、セラードブラジレイロ農協(1)、スルマツグロセンセ農協(1)、スルミナス農協(1)、トメアス農協(1)、南伯グランデサンパウロ農協(1)、南伯サンミゲールアルカンジョ農協(1)、南伯ピラールドスル農協(1)、ノバリアンサ農協(1)、バスト地域鶏卵生産者協会(4)、バルゼアアレグレ農協(1)、ブラジル日本食協会(2)、ブラジル日本文化福祉協会(1)、ブラジル日本文化福祉協会農村委員会(1)、ブラジル農協婦人部連合会(3)、プロミソン日伯文化体育協会プロミソン日伯協会(1)、ポンテプロンタ社(1)、モジダスクルーゼス農村組合(6)、山本喜善司賞委員会(1)、ラーモス文化協会(1)、レジストロ地域農業生産者協同組合(2)、ロライマ日伯協会(2)
アルゼンチン(6)	エコフロール花卉農協(1)、ハルディンアメリカ生産者組合(4)、メルコフロール花卉生産者組合(1)
パラグアイ(9)	Agrosato 社(1)、コルメナアスンセーナ農協(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、パラグアイ農牧総合試験場(1)、ピラポ農協(2)、ピラポ日会婦人部(3)
ボリビア(6)	コロニアオキナワ農協(4)、サンフアン農協(2)
ペルー(12)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)、フクダグループコンソーシアム(2)、ペルー日本食協会(3)、ペルー日系人協会カニエテ(1)、ペルー日系人協会リマ(2)、南ペルーブルーベリー社(1)
コロンビア(3)	Ricaurte Tanaka e Hijos 社(1)、フルーツアンデス(2)
関係機関(44)	農林水産省(5)、事業推進委員会(2) 在外公館 (ブラジル大使館、サンパウロ総領事館、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、メキシコ、ドミニカ共和国、ウルグアイ、チリ) (13)

	JICA（ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、メキシコ、ドミニカ共和国、ウルグアイ）(24)
--	---

3) 議事要旨

【事業対象国近況報告】

- 事業対象国6組織から、COVID-19の影響と対応、その他の状況について近況報告を行った。
 - ・カッポンボニート農協（ブラジル）
 - ・ノバリアンサ農協（ブラジル）
 - ・ハルディンアメリカ生産者組合（アルゼンチン）
 - ・コルメナアスンセーナ農協（パラグアイ）
 - ・コロニアオキナワ農協（ボリビア）
 - ・エスキベル農畜産物生産者協会（ペルー）

【事業内容の説明】

- COVID-19感染拡大のため、今年度は各事業オンライン方式で実施。オンラインにより、事業対象国以外のラテンアメリカ諸国より、日系農業者、在外公館、JICAが参加。
- 本年度事業で実施する、1)事業推進委員会、2)日系農業者等連携強化会議、3)研修事業、4)ビジネス交流促進、5)日本と事業対象国の会議の開催、及び本邦研修参加者によるグループJ-AGROで経験共有のためのウェブサイトを作成していることについて説明した。
- 研修はオンラインによるセミナー形式で行い、参加に関しては特に制限を設けないこと、セミナーテーマとして計画している11コース（農産物の付加価値向上、土壌改良、農産物直売所の運営、観光農園の運営、規格外農産物による地域活性化、商品パッケージ改善、マテ茶害虫対策、農村観光、果樹栽培への移行、堆肥作り、農産物のオンライン販売）について説明した。

【意見交換】

活動紹介

- ブラジルのパラナ州で行われているスタートアップ企業によって行われている農業イノベーション活動の紹介。若者のアグリビジネスへの参入の関心が非常に高まっている。
- ブラジル日本食協会（ABGJ）の紹介。ブラジルにおける日本食レストランの支援を行っており、ジャパン・フードトラックというブラジル全国をフードトラックで巡回し、和食の作り方の指導、普及活動を行うプロジェクトも企画している。
- ペルー日本食協会の活動内容紹介。ガストロノミーフェアで日本食品、農産物の販売や食文化の紹介を消費者に対して行った。生産者に対して新たな技術、高付加価値化の仕組み等についてサポートしたいと考えている。

セミナーテーマ

- 「世代交代の課題」が提案され、そのテーマの講師として想定している人物が紹介された。
- ブラジル、コロンビア、パラグアイの参加者から「灌水施肥（ファーターティゲーション）」の提案。
- 「アグリバイオ（微生物・昆虫を活用した農業：Agricultura Biologica）」の提案。
- 市場へのアクセス、卸売業者存在の弊害、農産物の地理的表示（GI）の知財登録、へ取り組むための手立てとしての「有機農業」がセミナーのテーマとして提案された。

その他

- コロンビアよりSPS（衛生植物検疫措置）についての質問があり、コロンビア政府との検疫協議が必要である旨、農林水産省より説明。
- 農業ビジネス創出のため、日本側企業データベースがあれば、商品を紹介したい企業側と買い手側を繋ぐことができるのではないかと。



会議の様子(1)



会議の様子(2)

(2) 第2回日系農業者等連携強化会議

1) 基本情報

日時	令和3年2月10日(水) 8:00-10:00
方法	オンライン形式(ZOOM)
参加国	ブラジル、アルゼンチン、パラグアイ、ボリビア、ペルー、コロンビア、メキシコ
参加者	日系農業者：合計84名(ブラジル47名、アルゼンチン5名、パラグアイ16名、ボリビア5名、ペルー3名、コロンビア5名、メキシコ2名、ウルグアイ1名) 関係機関：合計20名(農林水産省、事業推進委員会、在外公館、在京大使館、JICA等)
内容	1) 事業実施結果報告 2) 意見交換(今年度事業、次年度以降)
言語	日本語・ポルトガル語・スペイン語同時通訳

2) 参加者

ブラジル(47)	ABJICA(1)、ACENPRO(1)、APPC 農協(1)、CEAGESP(1)、Fitotropia(1)、JATAK 農業技術普及交流センター(1)、Kamino 農場(1)、MFT Consultoria em Agronegócios(1)、NG Shiitake(1)、Nishimori fruticulture(1)、Tres Irmãos 農場(1)、イビウナ農協(1)、ウニオンカストレンセ農協(1)、カップンボニート農協(3)、カネカサウスアメリカレプレゼンタティブ(1)、国立エネルギー学校(1)、スルマツグロセンセ農協(1)、スルミナス農協(1)、サンヴェルジェ食品飲料加工販売(1)、サンタエルシリア・ホールディング(1)、サンパウロ州農業局(1)、サンパウロ大学鉱物土壌研究(1)、サンフランシスコ川中流域日伯文化体育協会(2)、セラードブラジレイロ農協(1)、トメアス農協(1)、トメアス文化農業振興協会(1)、農業供給局サンパウロ州農業技術課(1)、パストス地域鶏卵生産者協会(2)、バルゼアアレグレ農協(2)、ビトゥルナマテ茶協会(1)、兵庫県ブラジル事務所(1)、ヒラガミグループ(1)、ブラジル日本文化福祉協会(3)、ブラジル農協婦人部連合会(1)、モジダスクルーゼス農村組合(1)、ラーモス文化協会(2)、レジストロ日伯文化協会(1)、ロライマ日伯協会(2)
アルゼンチン(5)	エコフロール花卉農協(1)、社会開発庁(1)、ハルディンアメリカ生産者組合(2)、メルコフロール花卉生産者組合(1)
パラグアイ(16)	JOM S.A.(1)、イグアス日本人会婦人会(1)、イグアス農協(2)、コルメナアスンセーナ農協(4)、全パラグアイ日系婦人団体連絡協議会(1)、パラグアイ日系農協中央会(1)、パラグアイ農牧総合試験場(1)、ピラボ農業協同組合(4)、ラパス農協(1)
ボリビア(5)	コロニアオキナワ農協(2)、サンフアン農協(3)
ペルー(3)	エスキベル農畜産物生産者協会(3)
コロンビア(5)	Asociacion Colombo Japonesa(1)、Bioagro(1)、Ricaurte Tanaka e Hijos 社(1)、自営業(1)、フルーツアンデス(1)
メキシコ(2)	iAgroS 社(1)、元 JICA (1)
ウルグアイ(1)	ウルグアイ ORT 大学(1)
関係機関(20)	農林水産省(10)、事業推進委員会(2) 在外公館(ブラジル大使館、サンパウロ総領事館、パラグアイ大使館、ボリビア大使館、ペルー大使館)(6)、在京大使館(1) JICA(1)

3) 議事要旨

【事業実施結果報告】

- オンラインでの連携強化会議、12コースのセミナー、12社とのビジネス交流を実施した。
- セミナーは日本側6、中南米側6、合計12コースを9月から1月の期間に次の順に実施した。1.マテ茶害虫対策、2.農村観光、3.果樹栽培への移行、4.農産物の付加価値向上、5.堆肥作り（ぼかし）、6.農産物直売所の運営、7.農産物のオンライン販売、8.果樹栽培技術、9.商品パッケージ改善、10.観光農園の運営、11.規格外農産物による地域活性化、12.果樹栽培への灌水施肥。
- ビジネス交流（オンライン商談会）は応募企業18社から選考し、12社に1月～2月の2週に渡って実施した。
- 各団体から収集している農業現場の写真・動画を掲載するギャラリーページを制作し、日本企業が中南米におけるビジネスニーズを発掘できるようにすることを目指す。

【意見交換】

研修事業（セミナー）

- 収益向上のために、野菜から果樹栽培への移行を考えているためセミナーはとても参考になった、農産物の付加価値向上セミナー講義を聞きパラグアイでもできることがたくさんあるのではと感じた、オンラインセミナーは難しい点もあると思うが、時間帯に合わせて我々も参加できるのがよかった、といった感想が上がった。
- セミナーで得た知識を元に農村観光やぼかし作りを始めた、有機農業に特化した商品の認証を連邦政府当局に申請した、他の参加者との知識や経験・課題の共有はとても参考になる、コロナが収束したら、他の参加国を訪問して事例を見て学びたいという積極的な声が聞かれた。
- セミナーの設定については、テーマをより専門的な内容にした方がよい、これまでのセミナーの中から選んだテーマを継続的に取り上げて、より専門的にしたらどうかという提案があった。
- 日本市場進出に必要な衛生管理、各種認証等、流通販売など、日本市場に進出するための道筋について知りたいという意見が上がった。
- 録画されているセミナーや会議の動画をたとえ短期間でも公開して参加できなかった人たちもアクセスできるようにしたら良いと思う。
- 企業が導入しているカイゼン、5S等の管理手法を農場経営にも導入するためのセミナーを実施してほしい。或いは、農業における継続的改善も興味深いテーマである。日本への輸出を目指すのであれば、我々は商品のみならず、経営管理能力を向上する必要があると思う。

ビジネス交流（商談会）

- 貿易の面だけではなく、様々な知識、経験、技術、イノベーション、生産手法等を中南米と日本間で共有することが重要だと考えている。それぞれの国ならではの強みがあるのでそれらを共有したい。
- 今後もこのような情報交換を通して、双方にとって有益なビジネスが実現することを願っている。
- 商談会では、後日話し合いの場を設けるなどのフォローアップがあればより良いのではないか。
- 日本側が中南米諸国にどのような商品を求めているのか明確にしてもらいたい。例えば「果物」また、「果物の中でもある特定の種類」というように明示してもらえれば、それぞれの生産者が事前に準備でき、より充実した商談会になる。
- ブラジル、パラグアイ、アルゼンチンなどの近郊地域で、例えば多くの生産者が興味を示している商品の場合、共同で購入することができればコストを下げるができるのではないか。
- 中南米側からも商品を販売したいので、株式会社イマイのような企業に中南米から商品を紹介できる機会をもらえたらありがたい。

事業全体

- 他の国の人と話すことが課題解決の糸口となるためこのような機会は非常にありがたい、他の参加国の日系農業者の方々には長年農業組合や協会等の組織を運営しているので参考にしたい、J-AGROのウェブサイトに掲載されている過去の研修生OBの投稿によってそれぞれの研修生がたくさん学んでいることを知ることができた、という声が上がった。

【総括】

事業推進委員会

- 初めて日本人が中南米に移住し始めて50年100年たった今、日系農業者間の信頼関係を構築することが大切。
- オンラインであればより多くの方がよりフラットな形で事業に参加することができる。数人だけがセミナー等に参加するのではなく、誰でも参加できるようにフラットな形でやっていくことが重要である一方で、ビジネスはアイデア勝負なので、SNS等を活用して様々な話し合いを何度も重ねることが大切。
- 農業は国や地域ごとに気候等の違いはあれど、皆様が抱えている課題等の共通点も多いので、J-AGROや同窓会のような場を活用してどんどん意見交換をしていって欲しい。

農林水産省

- 情報交換をして横のつながりが強化する、研修を一定期間受けられるような体制を検討したい。
- より多くの人にこの事業を知ってもらいたいため、日本国内、また中南米でも積極的に宣伝をしていただき、日本との交流を強化してほしい。

研修事業 Treinamento / Entrenamiento	
オンラインセミナーを12コース実施 Realizado 12 seminarios on-line / Realizado 12 seminarios on-line	
セミナー (日本) Seminario (Japan)	セミナー (南米) Seminario (Latin America)
1 農産物の付加価値向上 Agregación de valor a los productos agrícolas Agregación de valor a los productos agrícolas	7 マテ茶害虫対策 Control de plagas en la yerba mate Control de plagas de yerba mate
2 農産物直売所の運営 Operación de mercado de venta directa Operación de mercado de venta directa	8 農村観光 (研修生活動事例) Turismo rural (Modelo de actividad de ex-bolista) Turismo rural (Modelo de actividad de ex-bolista)
3 果樹栽培技術 Operación de pomar turístico (turismo rural) Operación de huerta turística (turismo rural)	9 果樹栽培への移行 Conversión a fruticultura Conversión a fruticultura
4 食品パッケージ改善 Mejoría de embalaje del producto Mejoría de embalaje del producto	10 堆肥作り (ぼかし) Aduco orgánico (bokashi) Aduco orgánico (bokashi)
5 観光農業の運営 Operación de pomar turístico (turismo rural) Operación de huerta turística (turismo rural)	11 農産物のオンライン販売 Ventas on-line de productos agrícolas Ventas on-line de productos agrícolas
6 規格外農産物による地域活性化 Revitalización regional por productos fuera del patrón Revitalización regional por productos fuera del patrón	12 果樹栽培への灌水施肥 Fertilización en la fruticultura Fertilización en la fruticultura



事業実施結果報告



意見交換の様子



中南米各国からの参加の様子